

寺
ごよみ

四月

- 一日 お講・下村
七日 韓隆弘法師納骨
十三日 雪ん子劇団新学期。
二五日 お寺の学校修了式・入校式・花かざり

- 二六日 お講・栗虫
二六日 慶びの春・花の誕生会
お釈迦さま、親鸞さま
そしてご先祖やおじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、子や孫の誕生をよろこぶ
法会です。

初参式の申込み受付中。
受式料は三千円。
二十日まで電話でお申し込
みください。

寺報 善巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

第16回 慶びの春 花の誕生会

初参式、チユーリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。

四月二十六日 午前十時より



釋隆弘法師御納骨——さくら吹雪の大谷本廟

「春が来た。冬は去った。雪や氷は消えて了つた。こんな文章を英語のリーダーで習った昔を思い出します。スプリングハズカムと云う調子のいい語調の夷やかさが耳に残っています。長かつた北国の冬も終ります。一番身近いところで、善巧寺では暖かい春の光りが本堂に射し込んで来ました。そして本堂を囲む雪囲いが撤去され成してくれたのです。前日からカム等もまけずに励みましょう。」

此の日、善巧寺のほとけの子たちが集つて境内に極楽浄土を現成してくれたのです。前日から花を摘んで来て、境内一杯に飾り付けをしてくれるの何万というチユーリップの花祭行進曲（作詞 赤尾自嶺）は歌っています。」

御存知のように四月八日は、お釈迦様のお誕生日です。

「昔も昔二千年
花咲き匂う春八日
響き渡つた一声は
天にも地にもわれ一人
花祭り行進曲の一節です。

此の日善巧寺では（四月一
十六日・日曜日）子供達が境内一杯にチユーリップの花を飾り母親達は新しく誕生したはとけの子等を抱いて善巧寺の初参式に参り、お釈迦様のお誕生日を祝います。人間だけに止まらず、凡ゆる生きとし生けるいのちの誕生はほとけの誕生です。

花祭行進曲（作詞 赤尾自嶺
詣下さい。住職 雪山 俊之

春が来た

七宝の池の、一々の蓮華の花はその大きさ車輪のようで青黄色、赤色には青光、黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて微妙香潔なり」これは仏説阿弥陀経の中の一章です。

境内は此の世ならぬお淨土が現われます。その極楽浄土をお経の中から引いて見ましょう。「池のなかの蓮華は大きさ車輪の如し。蓮華には青光、黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて微妙香潔なり」これは仏説阿弥陀経の中の一章です。

赤白、それぞれ、光を放つて居り、何とも言えぬ香りを放つて居ります。善巧寺の境内も、ほとけの子等の光り輝いた色彩の中、春の光を一杯に受けるので

す。当日は、老若こそつて御参

作曲 成瀬鉄治）は歌っています。

何年たつても変らずに咲いたままなる法の花

綺麗な一つを胸にさし

我等もまけずに励みましょう。



たお話はないはずでございます
また阿彌陀さまのこの本願を離
れた話をしてもらつたんじや真
宗のお説教にはならないのでござ
りますから、どんなお方がお
話なさつても、それが淨土真宗
のお話である限りは阿彌陀さま
のご本願のお心をそれぞれにお
伝え下さつておるには間違いな
いのでございますけれど、ただ
その本願のお言葉、阿彌陀さま
の本願のお言葉に即して正確に
如来さまの願いをお伝えすると
いうことがちょっと少ないのでは
ないか、と大変大切なご指示
をいただきました。それからあ
といろんな住職研修会とか布教
師の先生方の講習会であるとか
というふうな時には、まずそのこ
とを申して皆さんにご本願のお
心をストレートにできるだけお
話をしていただくようにという

すので、これを四十八願と申します。
「設我得仏國有地獄餓鬼畜生者不取正覺」
という言葉で始まつております。
た。先程あげておられたのは聞いていらつしやつたでしょう。
「設我得仏——不取正覺」という
ふうに何回も同じような定型句
がでてくるのを聞いておられた
と思います。最も漢文で読まれ

す。そして、人々を目覚めさせるもの、それをインドの言葉では「覺者」とか「正覺者」といい、それを「正覺を取らじ」と書いてあるのは、私がたとえ目覚めた者となつたとしてもこういう願いを実現することができないよ。うならば私は本当に目覚めた者と呼ばれる資格がないんだ、こういうふうにおっしゃつていい

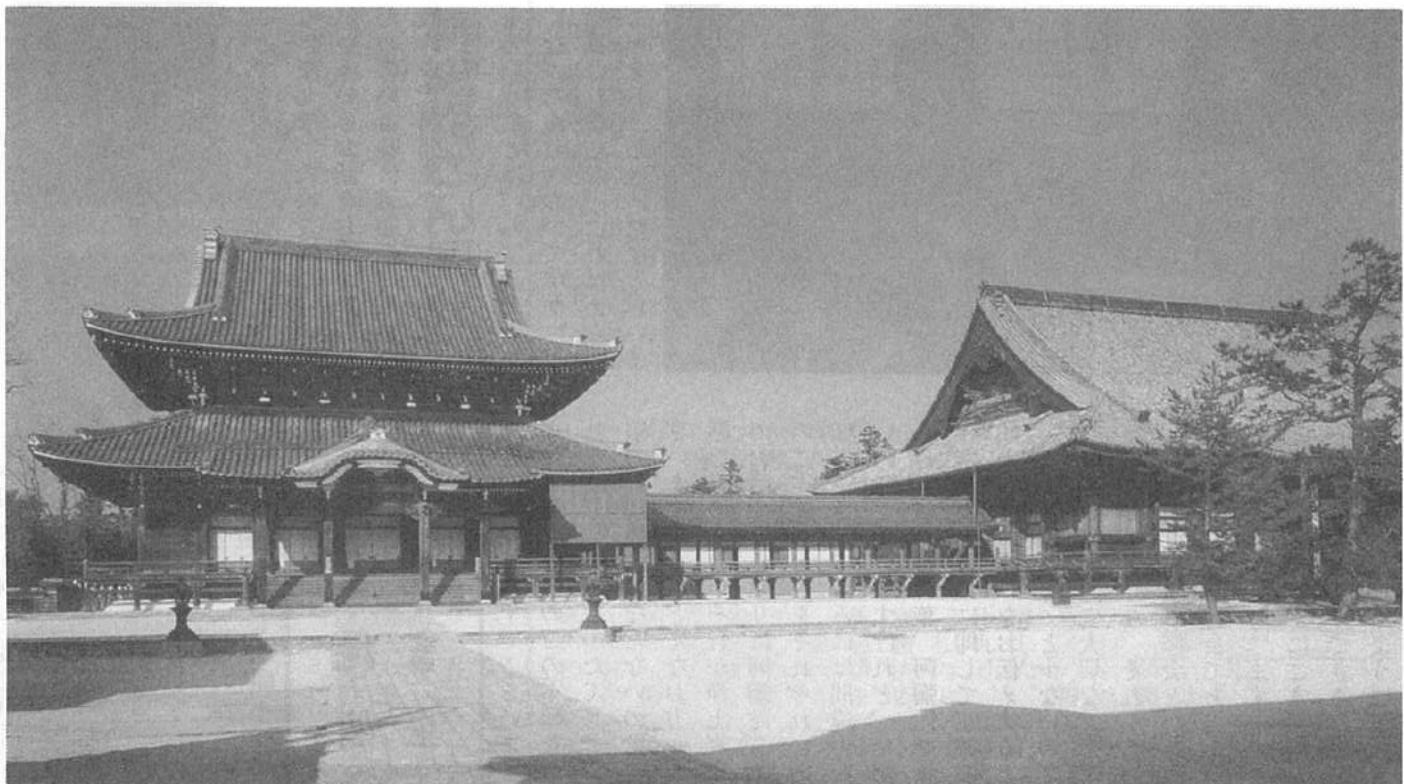
設我得仏國有地獄
餓鬼畜生者不取正賞

して、そういうわれればそういう傾向があると思いまして、「これから気を付けさせてもらいます」と申したことでございます。

ことを申しておるんです。今日
も与えられた時間わずかでござ
いますけれど、やはり阿彌陀さまの
ご本願のお心を皆さんにお話させて
いただきたいと思うのでござります。
さて阿彌陀さまの願い、ご本

るんだから、なんのこっちゃやさしさ
ぱりわかるんと思われるか知りませんが、よく聞いてますと「我得仏」という言葉で始まつて、「不取正覚」という言葉で終わつて、一連の言葉が何回も何回も繰り返されております。「設我我

んです。私が真に目覚めた者となつた以上は、ここに述べたような願いごとをきっと実現してみせる。こういうふうに仏さまが自らの願いに誓いをこめて仰せられておるんです。(つづく)



謹啓

諸君
諸君の声とあつかり水
やゆふ國が行す
そ第十二回稽古講入会
会の研修会は好天の
と景外へ。名の高
者よりおかけまで無
事終了させたがまうた
御了仕事中も遠
路りくへる
きやとお詫へ下さい
たと念押のあれ被せに
大慶を感動へとぞみた
また元々おもてすくも
でござんす。なつに、がえそ
喜びお子様がお御能
脇用一同の御能、
お見舞をなすに幸せ
おん中すす。

お夏方保がもよく
お手を貸して下さ
お席の私行は時
にも多くお恵ま
時前柄ゆきをか
幸の御活躍と命じ
お御能の言事と之
てござります。

三月一三日

真宗高田派
宝物館
殿部奉ふ
雪山於子様

歎異抄について

題意

雪山有花

さて、まず「歎異抄」の題名のもつ意味だが、卷頭に「ひそ

何だか隆弘先生が再来されましたようで、さぞ先生も御安心お慶びのことと存じます。ずい分今日まで御苦労のあつたことと存じますが、亡き隆弘先生とお二人分の力をつけられましたのも阿弥陀様や隆弘先生の御加護でございましょう。

常見寺お同行 後藤慶子さん

鶯の初音が庭に響き漸く春らしくなつて参りました。
昨日は高田山の御法会に私もお供させて頂き、良いお出会いを頂戴させて頂きました。難うございました。

御法話も感銘深く立派に勤められましたことお慶び申し上げます。



ほんとにいいご縁いたでもう
死んでもいいと思うほどです。
浦山新鬼原みつさん

高田派本山

専修寺さまへ

感激のおまいり

三月十、十一日の二日間、お礼言上と遅まきながらの御影堂落慶のお祝いを兼ねて、高田派



— 和子お裏方さまと —

御本山へ参拝しました。善巧寺からは鬼原勝次、鬼原みつ、大蔵トキエ、田中まつゑ子、有花、若坊守の六人に、常見寺から前坊守と、お同行で歌人の後藤慶子さんが合流しました。はじめて参詣した善巧寺組は御本山の広さにまずびっくり。十一日前中は新門さまがじきじきに山内をご案内下さって、御廟、お庭、安楽庵、宝物館などをゆっくり二時間近くかけて見学させていただきました。また昼食は、お裏方さまとご一緒にさせていただき、講演後は、お裏方さま、新門さまを囲んで緊張のうちにもなごやかに歓談のひとときを過し、感激につぐ感激がありました。



— 新門さまと —

構成

「歎異抄」の本文は十八ヶ条で構成されている。初めに漢文の序があり、第十一條の前に和文の序があり、十八ヶ条が終わつたあとにまた後述の文がある。短い「抄文」に序文が三つといふのは、めずらしい構成だが、これについては、諸説あるようだが、私の寺の二百年前の住職、空華學哲の祖、明教院僧鎔は宗祖関係の聖教をまとめた目録「法彙目録及左卷」の中に「歎異抄、大段十条、子段八条、合して十八ヶ条」と述べている。これはつまり、大と小、別々の体裁で編集されていたものを、後に一冊に合本したのではないか、ということになるのだが、僧鎔が二百年前に学林で見た古写本は現存していないので、結論を出せることではないだろう。

そこで、まず大段、つまり前十条の内容だが、これは聖人の法語録であつて「師訓十条」と呼ばれるものである。

「彌陀の誓願不思議にたすけられまいらせで……」

「親鸞におきては、ただ念佛して弥陀にたすけられ……」

「善人なおもて往生をとぐいわんや悪人をや」

「念佛もうすのみぞ末徹りたる大慈大悲心にてそつろう」

「親鸞は父母孝養のためとて一遍にても念佛もうしたる」

「如來より賜りたる信心をわがものがおにとりかえさん……」

「念佛者は無礙の一道なり」

「ひとえに他力にして自力をばなれたるゆえに……」

「念佛もうしそうらえども踊躍歡喜の心おろそかに」

「念佛には無義をもて義とす」

——いずれもいすれも、私たちの心をうつ聖人の肉声であり、他力念佛の究極の言葉である。

(つづく)

かに愚案をめぐらして、古今をかんがうるに、先師口伝の真信に異なることを歎き」とあり、「故親鸞聖人の御物語の趣、耳の底に留むるところ、いささかこれを注す、ひとえに同心行者の不審を散ぜんがためなり」とあるように、この書は①「歎きの書」であり、②「異を正す書」であり、③「抄の書」であるといふことだ。

親鸞聖人の没後、晩年の聖人に近侍して親しく聞いた法語を語録として残し、また次第に聖人の教えに違つものが現われたことを歎いて、それを批判した唯円の血涙の書といえよう。

